

しましま+ プラス

薬物乱用 現状学ぶ

県協会 指導員向け講習会

宮古島

不正栽培された大麻やけしに対する正しい知識を身につけるため、宮古地区の薬物乱用防止指導員らのための講習会が12日、宮古福祉保健所健康増進室で県と県薬物乱用防止協会宮古支部が主催して行われ、参加した同指導員や教職員ら約30人が、禁止薬物を取り巻く現状について理解を深めた。

講習会では九州厚生局沖繩麻薬取締部沖繩麻薬取締支所の前木秀治支所長が県内の薬物乱用の状況について発表。最近の薬物情勢の特徴として、外国人による無差別な密売やインターネット注文の増加、被疑者が学生、サラリーマン、主婦、公務員など多様な職種であることなどを紹介した。

その上で禁止薬物乱用の問題点として、健康に対する書や家庭の崩壊、犯罪や事件の原因などの項目をあげて説明。「薬物乱用問題は治安の根幹を揺るがすもの。関係各機関が連携強化し、全体で違法薬物を社会から根絶する必要がある」と強調した。

講習会ではこの後「薬物依存からの回復と支援」と題し、沖繩タルク・リハビリテーションセンターの入寮者が薬物乱用の危険性について、自身の経験を踏まえて語った。

講習会で発表者の説明に耳を傾ける参加者―宮古福祉保健所健康増進室

